

## 【意見】

1月6日の上毛新聞にも記事がありましたが、富岡製糸の世界遺産登録に関連して沼田の大桑も登録中と思われます。その他養蚕関係で世界遺産登録をしていると思いますが、これらに関連して観光へ力を入れる考えはあるのでしょうか。

沼田としては大桑が一番近く、管理下にあると思いますが、観光の為の周辺整備がまだ満足いく状態ではないと思われます。(大桑の環境維持、周辺概観を崩さない為の確保、交通手段、駐車スペース、トイレの整備、道路の整備、騒音対策、等々)

現時点で観光としては弱い面もありますが、見る目的で訪れる客はゼロではないと思います。もし、世界遺産登録となれば世界中から客が来ると想定されますし、そういった遺産を回るマニアも存在するのでこれは1つのドル箱といえるのではないのでしょうか。

関連ビジネスとして、お土産の強化も視野に入れるべきだと思います。新聞では桑を使ったクッキーや青汁が載ってましたが、沼田でも桑は作っていた訳で、桑を素材にしたお菓子や健康食品を作って観光客への販売やインターネット販売も行っても収益につながるのではと思います。そういったビジネスが盛んになれば、桑を再度栽培する農家も出現しそうですし、雇用や景気対策にもなるのではと思います。桑を使った食品は他にも実を使ったジャム、ワイン、漬物だっていけると思いますし、これらは大きなビジネスチャンスだと思います。

また、他の養蚕関係と連携し、スタンプラリーや名所を写真に収めたカードの配布ダムカードみたいなもの)を作ってもそれを目的で観光する人も出てくると考えられます。ほとんど理想論とも言えますし、既に叫ばれてる意見であるかもしれませんが、何もしないより実行し、それに付随するビジネスを生み出す原動力になれば幸いです。この手の考えはやはり市、もしくは県を巻き込んで実行し、それに伴い周りが活性化して景気につながれば一番いいことだと思います。ぜひ前向きに考えてみてはいかがでしょうか。

男：40代：市内在住

## 【回答】

ご意見のとおり、薄根の大桑は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産として世界遺産登録を目指しています。教育委員会では、国指定天然記念物でありますので、文化財保護の立場から、保存管理計画を定めて、定期的な樹木医の診断や必要な治療などを行っています。また、世界遺産登録を推進する上で、自然の状態を確保する緩衝地帯など、景観保持についての配慮も必要であり、大クワが樹勢を保ち、永く後世に残せるようにすることを第一に考えた対策をし、その上で、観光資源としての活用をしたいと考えております。

また、お土産の強化につきましては、新たな特産品の開発や地域ブランド化の推進が必要であると思います。桑の素材の活用につきましては、市内に桑の木を使った工芸品を手がけているお店がありますが、桑を素材にした食品販売はないと思われます。県内においては、桑の葉粉末を使ったパンが商品化されるという例もあり、食材としての浸透が期待されいているところでもありますので、ビジネスチャンスに結びつく可能性を持っているものと認識しております。今後につきましては、関係機関及び団体等と連携を図りながら研究をしてまいりたいと考えております。

富岡製糸場をはじめとした遺産群は、県内に広く点在していることから、スタンプラリー等の実施は、観光客を誘客するための有効な手段であると認識しております。昨年の10月には県がコンビニと連携してスタンプラリーを実施しておりますので、今後についても、県と連携を図りながら推進してまいりたいと考えております。

担当：経済部商工観光課、教育委員会社会教育課